

4月5日掲示

法学部・国際機構法

18年度前期月曜1時限・教員：柴田明穂

1. 4月10日（月）の授業は休講とする。補講日は追って通知する。
2. 予習教材および授業計画等を、法学部教務係まで取りに来ること。17日初回授業までに講読すべき文献等もあるので、早めに取りに来ること。
3. 条約集（例えば、松井編『ベーシック条約集 2006年版』（東信堂、2006年））は、初回授業から必携。

－以上－

国際機構法（柴田）授業計画（前半）および予習教材

2006年4月5日

4月17日

講義の概要説明

テーマ1：南極条約体制の概説

必読文献：林司宣「第3章極地」、63-87頁（事務にて配布）

参考資料：南極条約体制基本資料（事務にて配布）

参考文献：柴田「国際法形成フォーラムとしての南極条約協議国会議の『正当性』」
国際法外交雑誌第99巻1号(2000年)、1-31頁。

※24日の必読文献：柴田「南極条約事務局設置の法的意義」（事務にて配布）も講
読を開始すること。

4月24日

テーマ2：南極条約事務局設置交渉の分析

必読文献：柴田、前掲「南極条約事務局設置の法的意義」

5月1日

テーマ3：南極条約事務局設置に関する国際機構法的論点の整理

必読文献：植木俊哉「第7章国際組織法」、169-194頁（4/24授業時配布）。

参考文献：林一郎「南極条約体制と国際レジーム」熊本法学 85号（1995年）、1-33
頁。

5月8日

テーマ4：国際機構の史的展開：南極条約体制を歴史的にいかに位置づけるか

必読文献：小寺彰「国際組織の誕生」（4/24授業時に配布）

参考文献：佐藤哲夫『国際組織法』第1章、第2章。

参考文献：黒神直純「国際事務局の成立とその発展」岡山大学法学会雑誌 52巻4号
(2003年)、1-45頁。

5月17日（水）（補講予定）

テーマ5：国際機構の国際法主体性：ATCMは国際法主体性を有するか

必読判例：ICJ 損害賠償事件『国際法判例百選 No. 13』（5/8授業時に配布）

参考文献：小寺彰「国際機構の法主体性—歴史的な文脈の中の『損害賠償事件』」国際
法学会編『日本と国際法の100年第8巻 国際機構と国際協力』（三省堂、
2001年）、55-74頁。

参考文献：佐藤哲夫『国際組織法』第6章

以降は、授業中に指示する。

国際機構法基本文献

日本語

佐藤哲夫『国際組織法』（有斐閣、2005年）

家 正治編『講義 国際組織入門』（不磨書房、2003年）。

香西茂、安藤仁介編『国際機構条約・資料集[第2版]』（東信堂、2002年）。

中村 道「日本における国際機構法研究」『国際法外交雑誌』第96巻4・5合併号(1997年)、120-149頁。

* その他の論文等については、適宜、授業中に指摘する。

英語

C.F. Amerasinghe,
Principles of the Institutional Law of International Organizations,
2nd edition, 535p., Cambridge UP, 2005

Henry G. Schermers & Niels M. Blokker,
International Institutional Law, 4th Revised edition, 1302p.,
Martius Nijhoff Pub., 2003.

Jan Klabbers,
An Introduction to International Institutional Law, 399p.,
Cambridge UP, 2002.

Philippe Sands and Pierre Klein,
Bowett's Law of International Institutions,
Sweet and Maxwell, 2001.